

表 令和7年4月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第17号	1日 16時00分	10月下旬頃から火口直下の火山性地震が増減を繰り返し、前10日間の地震回数は多い。傾斜計では、3月30日に山体の膨張および収縮を示す変動がみられた。GNSS連続観測では、11月頃から新燃岳付近の地下の膨張を示す基線のわずかな伸びがみられる。火口から概ね4kmの範囲に影響する噴火の可能性がある。
		火口周辺警報	2日 11時00分	火山性地震は減少しさらなる山体の膨張は認められない。3月30日の現地調査で、火山活動の活発化を示す変化はみられない。火口から概ね3kmを超える範囲に影響する噴火の可能性は低くなり、警戒が必要な範囲を概ね3kmに縮小する。
		解説情報 第18～30号	2日 11時10分 4日、7～9日、11日、 14日、16日、18日、21 日、23日、25日、28日、 30日 16時00分	火口直下の火山性地震は10月下旬頃から増減を繰り返し、4日からと23日からは増加、30日時点で前10日間の地震回数は非常に多い。14日に火山性微動が発生。新燃岳西側斜面の割れ目で30日午前に噴気を観測（2024年12月14日以来）。複数の傾斜計で22日～26日に北西上がりの変動を観測。現地調査（8日、24日）で特段の変化はない。GNSS連続観測では、11月頃から霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すわずかな伸びが認められる。引き続き火口から概ね3kmの範囲内に影響する噴火の可能性がある。
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第27～34号	4日、7日、11日、14 日、18日、21日、25日、 28日 16時00分	活発な噴火活動が継続。南岳山頂火口の爆発、噴火、噴煙、大きな噴石、火映の状況。火山性地震、微動の発生状況。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は900～1800[t/日]（現地調査7、17日）でやや多い。GNSS連続観測で、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線で地下深部の膨張を示す長期の緩やかな伸びがみられる。始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられる。
		降灰報（速報）	5日 15時38分 7日 12時03分	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報（詳細）	5日 15時49分 7日 12時15分	噴火発生から6時間先まで（1時間ごと）に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
岩手山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第14～17号	4日、11日、18日、25 日 16時00分	傾斜計やひずみ計、GNSS連続観測で、2024年2月頃から山体深部の膨張を示す変動を観測。黒倉山山頂の南南西約5kmのひずみ計で9日頃から伸び、15日頃から縮みの変化を示し、22日頃からは9日以前の傾向に戻っている。黒倉山付近の微小な火山性地震は、13日以降やや多い。監視カメラで大地獄谷の噴気が一時的に高くなり、積雪前より地熱域がわずかに拡大。17日の上空からの観測（岩手県協力）で特段の変化はない。引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響する噴火の可能性がある。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第27～34号	4日、7日、11日、14 日、18日、21日、25日、 28日 16時00分	火山性地震は2024年4月中旬以降増加した状態。同3月中旬からの山体西側の膨張を示す傾斜変動は5月以降は停滞。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は300～400[t/日]（16、21日）、2023年3月以前より多い。引き続き、火口から概ね2kmに影響する噴火の可能性がある。

令和7年4月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
焼岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第21～24号	4日、7日、11日、14日 16時00分	火山性地震の回数は少なくなっているが、GNSS連続観測で山頂付近の緩やかな膨張の変化が続き、中長期的に火山活動が高まっている。想定火口域から概ね1km範囲に影響する噴火の可能性はある。
	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	噴火予報	18日 11時00分	火山性地震が3月上旬に増加し、その後は少ない。火山活動は低下し、想定火口域から概ね1kmの範囲に影響する噴火の可能性は低くなった。
		解説情報 第25号	18日 11時10分	火山性地震は少ない。傾斜計で8日にわずかな山頂方向隆起が観測されたがその後変動はない。噴気に変化はない。 GNSS連続観測で、山頂付近での緩やかな膨張を示す変化が継続し、焼岳周辺では数年おきに震度1以上となる地震を含む活発な地震活動がみられることから、中長期的に焼岳の火山活動は高まってきている。今後の火山活動の推移に注意。
御嶽山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第40～47号	4日、7日、11日、14日、18日、21日、25日、28日 16時00分	火山性地震の日回数は0～1回。火山性微動は観測されず。GNSS連続観測で、12月頃からの一部の基線の伸びは2月頃から停滞。12月中旬以降、火山性地震の増加や、山頂方向が隆起する変動を伴う火山性微動が観測され、火山活動の高まりが認められる。地獄谷火口から概ね1km範囲に影響する噴火の可能性はある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第14～17号	7日、14日、21日、28日 16時00分	白色の噴煙と、夜間に時々高感度の監視カメラで火映を観測。火山性地震は少ない。火山性微動はない。GNSS連続観測で、山体の膨張を示す変化はない。 長期的には熱活動や噴煙活動が高まった状態が続き、火口周辺に影響する噴火の可能性はある。
口永良部島	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第8～9号	8日、9日 16時00分	古岳付近の浅部で火山性地震がやや増加している。遠望観測及び地殻変動観測では変化はない。火山活動がやや高まっている可能性があり、今後の火山活動に関する情報に留意。
		解説情報(臨時) 第10～16号	11日 09時30分 11～16日 16時00分	古岳火口付近の浅部で火山性地震がやや多い状態が継続。監視カメラでの観測及び地殻変動観測では、特段の変化はない。 火山性地震が増加し、火山活動がさらに高まる可能性がある。今後の情報に注意。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	16日 23時25分	古岳火口付近の浅部で火山性地震が活発化。新岳及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性はある。新岳及び古岳火口から概ね1kmの範囲で大きな噴石及び火砕流に警戒。西側は新岳火口から概ね2km範囲で火砕流に警戒。
		解説情報 第17～22号	16日 23時50分 17日、18日、21日、25日、28日 16時00分	主に古岳火口付近浅部で火山性地震活動が活発化。16日の現地調査で地熱域の状況に変化なし。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ない。監視カメラ及び地殻変動観測では変化はない。火山活動が高まっているため、新岳及び古岳の火口周辺に影響する噴火の可能性はある。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第14～17号	7日、14日、21日、28日 16時00分	御岳火口で噴火活動継続。爆発、噴煙、火映の状況。大きな噴石の飛散。集落で降灰あり。島の西側付近で火山性地震が19～20日に増加し島内で震度2。その後は減少。火山性微動は主に噴火に伴って発生。GNSS連続観測では、10月以降、島の西側やや深部でマグマ蓄積量増加を示唆するわずかな変動が認められる。 長期に噴火活動が継続し御岳火口周辺では大きな噴石が飛散する可能性がある。

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 岩手山、浅間山、焼岳、御嶽山、霧島山（新燃岳）、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報（定時）を発表している。口永良部島では17日2時に開始し、焼岳では18日8時で終了した。